

エネルギー・資源学会「第12回茅奨励賞」の受賞について

記者各位

当社(社長:西尾進路)は、当社は、1月31日に行われたエネルギー・資源学会※1の「第24回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス」において、「水素インフラの構築に向けた水素輸送・貯蔵技術の開発」に関する発表を行いました。この度、この内容が高く評価され「第12回茅(かや)奨励賞※2」を受賞しましたのでお知らせいたします。

水素は、燃料電池等に利用され、サステナブルな社会(将来にわたり持続・発展し続ける社会)を創造するための新たなエネルギーとして期待されています。水素は化石燃料をはじめ多様な原料から製造可能であるという利点を有しているものの、エネルギーシステムとして社会に普及させていくためには、「製造」「輸送」「貯蔵」「CO2の固定化」の各分野において、大きな技術革新が必要です。

このうち「輸送」「貯蔵」に関する技術開発として、水素の吸蔵材に関する以下の2点の発表を行いました。

- ・1点目は炭素系水素吸蔵材において、1.5質量%という物理吸蔵系材料ではトップレベルの水素吸蔵量を達成したこと。
- ・もう1点目は、炭素系を上回るポテンシャルを秘めた多孔性金属錯体系水素吸蔵材において、世の中で最高水準の水素吸着密度(水素をくっつける力の尺度)を達成したこと。

なお、6月5日に、下記のとおり表彰式が執り行われましたので、合わせてお知らせいたします。

当社グループは、経営理念として「Environmental harmony(地球環境との調和)」を掲げ、今後も、地球環境保全に寄与する技術開発に挑戦し続けることで、人々から最も支持される総合エネルギー企業を目指して参ります。

※1 エネルギー・資源に関する諸問題を総合的に解決することを目的に1980年(昭和55年)に設立され、電力・ガスを中心に1,700名以上の会員で構成されている。

※2 平成9年4月～平成13年5月まで会長を務めていた茅陽一氏による出資金で賞を設立。エネルギー・資源・環境に関し優秀な研究業績をあげた新進気鋭の者に授与するもので、本会の研究発表会あるいはコンファレンスにて研究発表したものの中より選考されるもの。その選考件数は、毎年5件以内となっている。

記

<表彰式の概要>

1. 受賞対象:「水素インフラの構築に向けた水素輸送・貯蔵技術の開発」
2. 日時:6月5日(木)14:25～14:40
3. 場所:大阪国際交流センター 2F「小ホール」
4. 当社受賞者:新日本石油 水素・新エネルギー研究所 水素貯蔵・輸送グループ 大島伸司

右:エネルギー・資源学会長 石谷 久氏
中央:「第12回茅奨励賞」を受賞した大島社員
左:茅奨励賞選考委員長 山地 憲治氏



エネルギー・資源学会「第12回茅奨励賞」の受賞について